

# 綿花相場用語集

経済動向月報 (MEL) 補足資料



綿花市場はグローバル化が進み、世界の年間総生産量の 1/3 以上が国際取引されている。国際綿花市場のうち、経済動向月報(MEL)では複数の相場情報を継続して発信している。これら複数相場のいずれもが綿花の取引価格を示すものであるが、それぞれの意味するところとは異なっている。そこで補足資料として各相場の特徴を簡単に記す。

## NY 期近物相場 (当限)

NY期近物相場 (当限) とは米国の綿花先物市場における相場の一つである。先物市場では様々な商品が取引されており、商品によって限月、すなわち満了となる期限が異なる。NY先物市場では、3月、5月、7月、10月、12月の5限月が設定されている。売買当事者によって本日売買された綿花は将来のある特定月に引き渡しされるが、その月のことを限月という (例: 3月限とは、3月に引渡しとなる綿花の売買価格のこと)。「期近物」とは取引最終日 (期限日) が最も早く到来する限月のこと。すなわち、1月時点では当限とは3月限のことであり、4月時点では5月限のことを指す。期近物相場が重要である理由は、直近に引渡しが行われる価格であるため、直近に出荷される綿花の市場価値と近似となるためである。

## A インデックス

A インデックスは 1960 年代より業界団体コットルックが発表している指標であり、「世界の綿花相場」の代表的な指標と言われている。綿花の綿糸への加工は、ほぼ全量が極東地域の紡績工場において行われているため、極東地域への出荷価格を調査し、そこからその日の平均輸出価格を算出したものが A インデックスである。A インデックスの対象となっているのは「ミディアム・グレード」綿花のみであり、現在対象となっている綿種は世界で 16 種である。しかし各種条件から、最安値 5 種の平均値から A インデックスが算出されている。最安値の綿種の平均値を用いる理由としては、安値の綿種ほど大量に取引され、その綿種の平均価格は、国際市場における取引をより正確に反映することができるということが挙げられる。A インデックスは NY 当限より高値になりがちであるが、その理由は次の二つである。すなわち、(1) A インデックスの対象となっている綿花は NY 先物市場の対象綿種よりわずかに高品質であること。(2) A インデックスには、極東への出荷にかかる費用が含まれること。

## 中国綿花相場 (CC インデックス)

中国綿花相場 (CC インデックス) とは、中国国内の綿花相場のことであり、単純に中国国内の紡績工場へ出荷される綿花の平均価格のことである。綿花の品質によって数種類の CC インデックスが発表されているが、そのうち最もよく引用されるのは 328 級 CC インデックスである。328 級 CC インデックスは中国政府の備蓄プログラムによる買取の指標として使用されており、当経済動向月報(MEL)でもこの指標の動向を追跡している。

## インド綿、パキスタン綿の現物価格

現物価格とは綿花の即時引渡しが行われる現金価格のことである。活発な取引が行われているのはインドとパキスタンの綿花市場であり、両市場の平均価格がそれぞれの国の綿花協会から日々公表されている。極東への出荷費用を含む A インデックスや中国国内の紡績工場への出荷費用を含む CC インデックスと異なり、現物価格には出荷費用は含まれない。

世界の綿花市場の情勢をより詳しくお知りになりたい方は、コットンインコーポレイテッドが提供するポッドキャストをお聞き下さい。